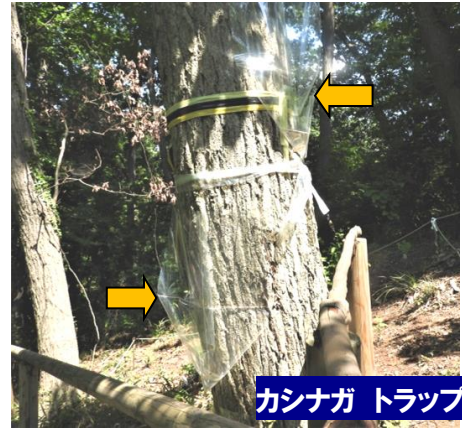


《トラップ観察の経緯》

2021年5月12日…… 会では、相原中央公園でナラ枯れの原因となるカシノナガキクイムシ(以下「カシナガ」という。)のトラップを作成し、その足で小山田端自然公園の自然保護区内の樹木8本に設置。発生時期には早いと考え、水等は入れず設置のみ行いました。

トラップ設置樹木は、昨年、カシナガ穿孔跡を確認したクヌギ(1本)とコナラ(9本)周辺で、開けた空間のある大径木を選定しました。



同年5月23日…… トラップには、以後の雨により水が溜まり、スジクワガタや多数のコメツクイムシの仲間が入っていました。樹のためとはいえ、水に沈む黒い多数の命に、哀悼の気持ちを強く感じさせる光景でした。

同年5月25日…… 2本のコナラのトラップで、4匹のカシナガに似たキクイムシ科の仲間(下の写真「キクイムシの仲間-1」参照)を確認しました。この虫は3mm程度。円筒形でとても小さく、トラップに落ちて間もないことから3匹生存していました。放すと小さな脚をしきりに動かし歩き回ります。歩く速度は、3匹平均7.9 cm/分でレンズの中ではとても早く感じました。

《カシナガ確認》

同年5月30日……3本の樹のトラップで、シンクイムシの仲間を確認。採取した虫をフィルムケースに入れ、自宅で調べた結果、はじめてカシノナガキクイムシを確認しました。

～ シンクイムシの仲間はとても多い～

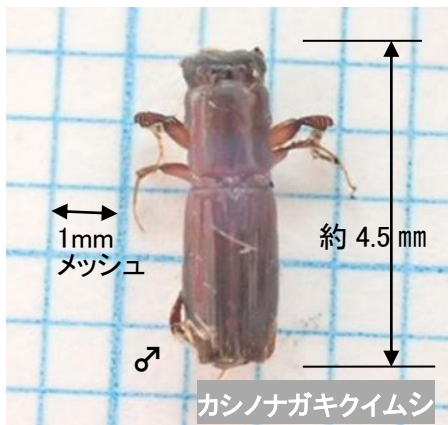
採取した通称シンクイムシの仲間は、とても小さく、そしてよく似ています。調べてみますとシンクイムシの仲間は、ナガキクイムシ科とシンクイムシ科の虫とのこと。カシナガはナガキクイムシ科に属し、現在、日本では18種、キクイムシ科は302種類が知られているそうです。現在、これらの詳細な図鑑を入手できない中で、幸いインターネットで森林総合研究所発行の「カシ



「ナガキクイムシとその仲間」主要日本産ナガキクイムシ科簡易同定用写真集を見つけ、参考としました。ここで採取した小さなキクイムシの仲間は、下の写真のとおりです。

《採取したキクイムシの仲間》

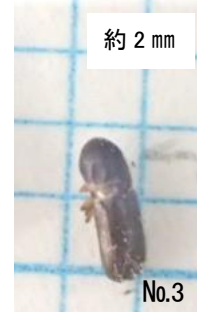
～ 今回のターゲットは左下のカシナガです ナガキクイムシ科 ～



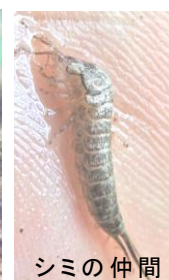
ナガキクイムシ科ではカシナガとヨシブエナガキクイムシの2種確認。カシナガの♂の体長は4.5mm前後、♀は4.7mm前後です。

ヨシブエの♂は3.4mm前後、♀は3.6mm前後で、カシナガより小さく、体が細長いことで分かります。

～ キクイムシ科の名称不詳3種 ～



《他にトラップで採取した主な生き物たち》 ※ 他に多数のアリの仲間を捕獲。



《観察メモ》

昨年カシナガに加害された樹木は、枯れませんでした。確認もれのコナラ1本の枯れが見られました。発生は6月から始まり7月までがピークといわれています。今後、週1回、トラップの確認を行いカシナガ

を捕らえた樹の観察を行いながら、増設や移設を図っていきたく考えています。